城ヶ尾遺跡出土品

【所　　在　　地】霧島市国分上野原縄文の森2－1　鹿児島県立埋蔵文化財センター
【種　　　　別】県指定有形文化財（考古資料）
【指定年月日】平成１６年４月２０日

東九州自動車道建設に伴い，発掘調査を実施した城ヶ尾遺跡の出土品である。４基の土器埋設遺構から縄文時代早期の塞ノ神式土器である深鉢形土器１点と壺形土器３点が完全に近い状態で，また口縁部を上にして直立した状態で出土した。いずれも塞ノ神式土器の典型的な文様をもち，壺型土器は曲線的で，独特な形をしている。

これらの土器は製作された後さらに熱を受けて埋設されており，そのことになにか役割のあったことをうかがわせる。また，４基の土器埋設遺構は遺跡内の最高位の場所で検出され，特別な場所であることが想定される。これらのことから祭祀的な行為との関連性も考えられ，当時の人々の観念・思想等の精神構造を知るうえでも貴重な資料である。